

ほ う き さ ん 月 2018年 棕本673 存仁寺



新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、「平成二十九年七月九州北部豪雨災害」において、多くのご門徒の方々が被災されました。

犠牲となられた方に衷心より哀悼の意を表しますとともに、

被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、昨年三月には東日本大震災から七回忌を、四月には平成二十八年熊本地震から一周忌を迎えました。災害によつて多くの方が犠牲となられ、被災されています。「諸行無常」の世であることを痛感するとともに、今、様々なご縁の中で生かされているいのちであることを実感します。今後も宗門として、被災各地への支援活動を続けてまいりましょう。

昨年五月三十一日までの十期八十日間にわたる伝灯奉告法要には、約四十五万の方に本願寺へご参拝いただきました。大変ありがとうございました。感謝申し上げます。法要初日の親教「念佛者の生き方」と「伝燈奉告法要御満座の消息」において、浄土真宗のみ教えを聞き、阿弥陀さまのおはたらきの中で生きる私たちの生き方について述べさせていただきました。

グローバル化する時代状況の中、二〇一五年、国連では「持続可能な開発目標(SDGs)」が採決されました。これは、今まででは将来の世代に人類が生存できる地球を受け継ぐ事ができないという強い危機感に基づくものです。そこでは「誰一人取り残さない」を理念として、「貧困」や「不平等」「環境」「平和」など十七の課題解決のための目標が掲げられています。

阿弥陀さまのおはたらきの中、その大智大悲のお心に促さ

れ導かれて社会的課題に積極的に取り組み、すべての人びとが心豊かに生きられる社会の実現を目指すのが私たち念仏者です。本年も、浄土真宗のみ教えを聞き、阿弥陀仏さまのおはたらきのもと、念仏者として精一杯歩んでまいりましょう。

大谷光淳ご門主二〇一八年 本願寺新報・大乗一月号より

光壽無量　あけましてなもあみだぶつ。新しい年、時間があらたに刻み始まりました。阿弥陀さまの大慈悲のおはたらきは変わることなく、いつでも、どこにいても、このわたしのいのちにかけてくださつてあります。しかし、私たちはそのようなはたらきがあることも知らず、気づかず、お聞かせていただいても「へえーそんなもんですか」と流してしまっています。阿弥陀さまは、そのことをも見抜いたが故に「だからこそすぐわざにはおれないのです」「どうか受けとめてほしい、すぐわれてほしい」と常に願つてくださつてあります。聖人が「極重惡人唯稱仏 我亦在彼攝取中 煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」(極重の悪人は、ただ仏を称すべし。我また、かの攝取(せつしゅ)の中にあれども、煩惱、眼(まなこ)を障(ささえ)て見たまつらずといえども、大悲ものうきことなく、常に我を照したまう、といえり。)とお讚えくださいました。そのことを受けつつ、今年の言葉として「気づかずとも 願われ 護られている ともにあゆんでくださるかたがある いつでも み名称え なんまんだぶ なんまんだぶ」と掲示させていただきました。

さて、昨年のご門主の御消息に「宗門が十年間にわたる「宗門総合振興計画」の取り組みを進めておりますなか、来る二〇一三(平成三十五)年には宗祖ご誕生八百五十年、そして、その翌年には立教開宗八百年という記念すべき年をお迎えいたします。」とお示しになられました。拙寺でも宗祖七五〇回大遠忌の法要や、先の法要を迎えていく準備をしてまいりました。これからのお寺のありようへのご助言、また老朽化による書院の改築に向けてご門徒皆さまよりのご協力をいただきかなくてはなりません。

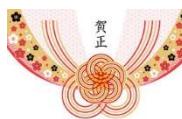
何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

帰命ともうすは
如來の勅命に
したがう
こころなり
【尊号真像銘文】

住職

1月の行事

- 1日(月) 6時30分 おあさじ
4日(木) 10時 コーラス・新年会
10日(水) 10時 無量寿会例会新年会
14日(日) 13時 佛教婦人会班長会
16日(火) 6時30分 おあさじ
20日(土) 10時 子ども会 5時 寺ヨガ
28日(日) 13時30分 佛教婦人会報恩講法要



2月の行事

- 1日(木) 6時30分 おあさじ
13時30分 コーラス
7日(水) 13時30分 無量寿会例会
16日(金) 6時30分 おあさじ
18日(日) 正月汁 下組
25日(日) 還暦のお祝い
13日(火)～16日(金) 名古屋別院報恩講法要



1月9日(火)～16日(火) 本山御正忌報恩講法要
念仏のふるさとへご参拝しましょう

宗派・教区・鈴鹿組関連

- 19日(金) 教区第2回実践運動研修会・新年会
名古屋別院 「知らなかった、ぼくらの戦争」
アーサー・ビナードさん(詩人・随筆家・翻訳家)
23日(火)～24日(水) 東海教区佛教婦人会
「御同朋の社会をめざす運動」研修会 鳥羽
「念仏者の生き方」 -人間に生まれたよろこび-
岐阜教区 等光寺小川真理子さん
25日(木) 花まつり実行委員会 19時30分 光明寺
27日(土) 鈴鹿組僧侶・門徒総代研修会・新年会
鈴鹿馬子唄会館 「非戦平和」「念仏者の生き方」
総合研究所・教学伝道研究所 香川真二さん

「帰命ともうすは 如來の勅命に したがうこころなり」

一月の法語は『尊号真像銘文』からの一文で、天親菩薩の『淨土論』の冒頭の「世尊我一心 帰命尽十方 無碍光如来」(お釈迦さまの仰せにたいして、阿弥陀さまのお救いを疑いなく信じ、まことの信心を頂戴した。仏の光明はいつもどこでも普く満ちわたり、煩惱や悪にさまたげられない仏の徳であり、智慧である)の「帰命」を解釈された一文です。私たちは、目の前に見えるものや現実生活の中でありのままの真実に気付かず、自己中心の心で物事をとらえています。そのため、思い道理にならないことで、悩み苦しむことがあります。そうした経験をしますと科学的・実証的に物事を見ていた私たちに突如道理の通らぬことが頭をもたげてきます。現在でもたたりを恐れる信仰が盛んであつたり、縁起の道理に合わない迷信が絶えないのもその一例でしょう。私たちの人間生活は、無明煩惱にもとづいた迷いの積み重ねで、迷いの因果しかない。聖人は、顛倒・虚偽でない真実真如に順じた、如來の名号の救いの業因により、淨土往生の正しき因を頂戴してさとりの果に至るという、阿弥陀さまによる真実の因果の道理に私たちを導かれたのです。『銘文』では如來より「帰命せよ」との招喚に信順し真実信心を頂戴した、と衆生の立場から解釈されています。救いのみ名を聞いて、阿弥陀さまの真実功德が、まさにこの凡夫の世界に満ち満ち、いかなる時においてもその大悲の中に願われ生かされていきます。その阿弥陀さまに信順するところに、間違ひなく淨土に生まれさせていただける安心ができるのであります。